事業番号　2023　－　文科　－　22　－　0346

令和5年度行政事業レビューシート　（　文部科学省　）

事業名	国立研究開発法人海洋研究開発機構施設整備費補助			担当部局庁	研究開発局	作成責任者
事業開始年度	平成16年度	事業終了（予定）年度	終了予定なし	担当課室	海洋地球課	海洋地球課長 山之内　裕哉
会計区分	一般会計					
根拠法令（具体的な条項も記載）	国立研究開発法人海洋研究開発機構法第17条			関係する計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月閣議決定） 海洋基本計画（令和4年4月閣議決定）等	
政策	9　未来社会に向けた価値創出の取組と経済・社会的課題への対応			主要経費	科学技術振興費	
施策	9-5 国家戦略上重要な基幹技術の推進					
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20211224-mxt_kanseisk02-000019646_9-5.pdf					
事業の目的（5行程度以内）	平和と福祉の理念に基づき、海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等の業務を総合的に行うことにより、海洋科学技術の水準の向上を図るとともに、学術研究の発展に資することを目的とする。					
現状・課題（5行程度以内）	海洋観測や多様な研究開発による高水準の成果の創出及びその普及・展開等、引き続き我が国の海洋科学技術の中核的機関としての役割を担うことが重要である。また、その際、我が国全体としての海洋科学技術の研究開発成果を最大化するために、老朽化した施設の計画的な更新が必要であり、そのための予算確保が課題である。					
事業概要（5行程度以内）	国立研究開発法人海洋研究開発機構の設置する施設の整備充実を図るために要する経費に対して補助を行う。					
事業概要URL	https://www.jamstec.go.jp/j/about/project/pdf/mokuhyo2019.pdf					
実施方法	補助					
補助率等	定額					

予算額・執行額（単位:百万円）（インプット）

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
予算の状況	当初予算（A）	－	－	－	－	－
	補正予算（B）	－	302	2,495	181	
	令和5年度第1次補正予算				181	
					－	
					－	
					－	
					－	
	前年度から繰越し（C）	－	－	302	2,642.5	－
	翌年度へ繰越し（D）	－	▲ 302	▲2,642.5	－	
	予備費等（E）	－	－	－	－	
	計(F) =（A)+（B)+（C)+（D)+（E）	－	－	154.5	2,823.5	－
執行額(G)		－	－	－		
執行率（%） =(G)/(F)		－	－			
当初予算＋補正予算に対する執行額の割合（%） =(G)/｛(A)+(B)｝		－				

令和5・6年度予算内訳（単位：百万円）

歳出予算項・目			令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由（・要望額・予備費）
（項）		国立研究開発法人海洋研究開発機構施設整備費			－
	（目）	国立研究開発法人海洋研究開発施設整備費補助金			
計（A）			－	－	

活動内容① （アクティビティ）	海洋研究開発機構の業務を遂行するために必要な施設の整備を行う。
↓	

活動目標及び活動実績① （アウトプット）	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	研究開発成果の最大化を図る。	施設の整備　実施件数	活動実績	件	－	－	11	－	－
			当初見込み	件	－	1	10	10	－

↓ **成果目標①-1の設定理由（アウトプットからのつながり）**	「施設の整備、実施件数」に適切に取り組むことは、独立行政法人通則法に基づく主務大臣による業務実績の評価結果のうち全ての項目で標準評価以上の評価を受けることにつながる。

成果目標及び成果実績①-1 （短期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度
	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による業務実績の評価結果のうち、全ての項目で標準評価以上の評価を受ける。	標準評価（B）以上の評価を受けた項目件数。 ※前年度の実績は文部科学大臣が国立研究開発法人海洋研究開発機構の令和4年度の業務の実績評価を決定したのち、記載予定。	成果実績	件	10	12	12	－
			目標値	件	12	12	12	12
			達成度	%	83.3	100	100	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	「国立研究開発法人海洋研究開発機構の業務の実績に関する評価」による

↓ **成果目標①-2の設定理由（短期アウトカムからのつながり）**	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による業務実績の評価結果のうち、全ての項目で標準評価以上の評価を受けることは、中長期目標の期間における業務実績の評価結果のうち、全ての項目で標準評価以上の評価を受けることにつながる。

成果目標及び成果実績①-3 （長期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 7 年度
	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による中長期目標の期間における業務実績の評価結果のうち、全ての項目で標準評価以上の評価を受ける。	標準評価（B）以上の評価を受けた項目件数。 ※前年度の実績は文部科学大臣が国立研究開発法人海洋研究開発機構の中長期期間目標・計画内の業務の実績評価を決定したのち、記載予定。	成果実績	件	－	－	－	－
			目標値	件	－	－	－	12
			達成度	%	－	－	－	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	「国立研究開発法人海洋研究開発機構の業務の実績に関する評価」による

アウトカム設定についての説明	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由
	－
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由
	－

事業に関連するKPIが定められている閣議決定等	名称	－
	URL	－
	該当箇所	－

事業所管部局による点検・改善		
点検結果	研究所業務を行うための施設を充実したことで、業務実績に係る評価及び研究評価にて、令和3年度の評価は目標を超える評価結果を得ることとなり、一定の成果を得たものと考えている。 随意契約を締結することとなる案件については、機構内に設置された契約審査チームにより、会計規程における「随意契約を締結することができる事由」との整合性やより競争性のある調達手続の実施の可否について、少額案件、競争性のある契約に区分される案件は除き、全件の事前審査を実施している。また、契約金額3,000万円を超える随意契約については、機構内に設置した契約審査委員会において、会計規程との整合性やより競争性のある調達手続の実施の可否の観点等から、随意契約の適用の適否や随意契約の相手方の適否について審査する体制となっている。更に、随意契約限度額以上の契約について、外部有識者で構成されている契約監視委員会による事後点検を実施している。 令和4年度については、一部の予算の繰越をしたものであるが、繰越理由の原因と必要性を確認した上で繰越し手続きを行っている。今後、繰越の事象を踏まえた上で着実に執行を進めていくことが必要である。	目標年度における効果測定に関する評価（令和8年度実施） －
改善の方向性	調達等合理化計画に基づく取組の状況等について、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）に基づく業務実績評価等を通じて検証等を行う。当該事業の令和5年度の進捗状況は、調達に必要な手続きを進めているところであり、繰越した予算が、適切に執行されるよう法人に対して、指導を行っていく。	

外部有識者の所見
レビューシートおいて、繰越要因を具体的に丁寧に説明する必要がある。

行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見	
事業内容の一部改善	この事業は、令和4年度決算における繰越について十分に検証のうえ、令和5年度においては計画的な事業実施を行い予算執行の適切な改善に努めることが必要である。

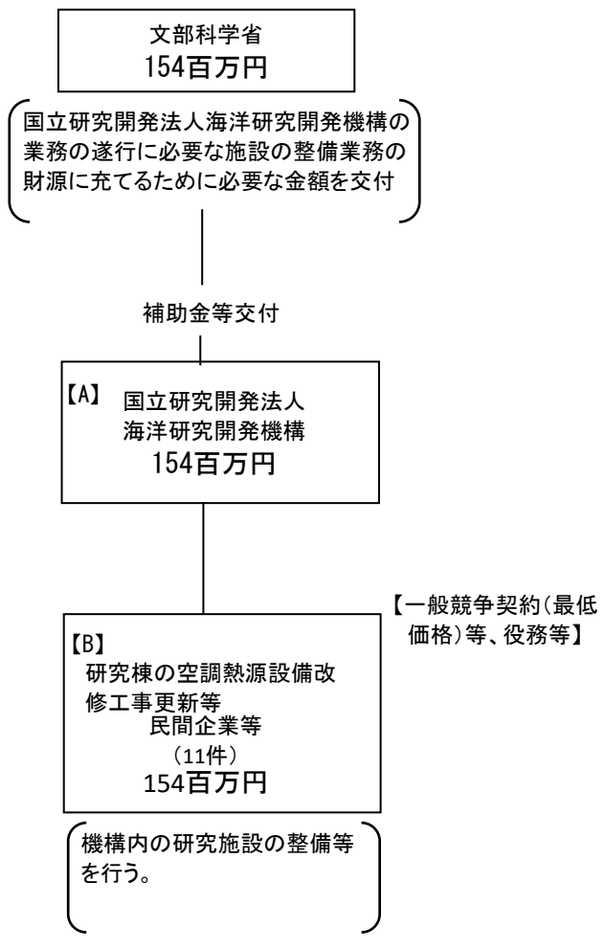
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況	
執行等改善	外部有識者からの所見を踏まえ、予算の繰越に関しては、事業遅延報告書によりその内容の妥当性については国としても確認してきたところであるが、レビューシートへの記載等を含め、今後も計画的かつ適切な事業執行に資するべく、取組を行って行く。

過去に受けた指摘事項と対応状況	
	公開プロセス・秋の年次公開検証（秋のレビュー）における取りまとめ
	－
	上記への対応状況
	－
	その他の指摘事項
	－
	上記への対応状況
	－

備考
－

関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成23年度	302			
平成24年度	317			
平成25年度	307			
平成26年度	304			
平成27年度	－			
平成28年度	297			
平成29年度	0298			
平成30年度	0290			
令和元年度	文部科学省	－		
令和2年度	文部科学省			
令和3年度	2021	文科	新22	0022
令和4年度	2022	文科	21	0311

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）



費目・使途 （「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）	A.			B.		
	費　目	使　途	金　額 （百万円）	費　目	使　途	金　額 （百万円）
	業務費	業務遂行に必要な施設の整備	154	役務	試料分析棟 冷蔵･冷凍室改修工事	31
	計		154	計		31
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載				チェック		

支出先上位10者リスト

A.

	支　出　先	法　人　番　号	業　務　概　要	支　出　額 （百万円）	契約方式等	入札者数 （応募者数）	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 （支出額10億円以上）
1	国立研究開発法人海洋研究開発機構	7021005008268	国立研究開発法人海洋研究開発機構の業務の遂行に必要な施設の整備業務	154	補助金等交付	－	－	－

B

	支　出　先	法　人　番　号	業　務　概　要	支　出　額 （百万円）	契約方式等	入札者数 （応募者数）	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 （支出額10億円以上）
1	三菱電機ビルソリューションズ株式会社	5010001030412	試料分析棟 冷蔵･冷凍室改修工事	31	一般競争契約（最低価格）	2	－	－
2	三菱電機ビルソリューションズ株式会社	5010001030412	海洋技術研究棟ほか電灯設備更新工事	26	一般競争契約（最低価格）	4	－	－
3	第一セントラル設備株式会社	2040001026699	海洋技術研究棟空調換気設備更新工事	46	一般競争契約（最低価格）	4	－	－
4	日本ビルコン株式会社	9010601024883	シミュレータ研究棟空調換気設備更新工事	43	随意契約（不落・不調）	10	－	－
5	株式会社八洲建築設計事務所	8420001002160	試料分析棟 冷蔵･冷凍室改修工事の設計･積算及び工事監理業務	4	一般競争契約（最低価格）	2	－	－
6	株式会社ジャカコン西日本	8360001001078	仮保管用冷蔵・冷凍施設（冷凍コンテナ等）の賃貸借	2	一般競争契約（最低価格）	2	－	－
7	有限会社小栗事務所	9020002026363	海洋技術研究棟ほか電灯設備更新工事　工事監理業務	1	随意契約（少額）	－	－	－
8	株式会社__瀬建築事務所	1010401025370	海洋技術研究棟空調換気設備更新工事　工事監理業務	1	随意契約（少額）	－	－	－
9	日本通運株式会社	4010401022860	試料分析棟冷蔵･冷凍室改修に伴う試料等の搬送	0.2	随意契約（少額）	－	－	－
10	日本通運株式会社	4010401022860	試料分析棟冷蔵･冷凍室改修に伴う試料等の搬入	0.2	随意契約（少額）	－	－	－
11	環境保全株式会社	2420001010053	試料分析棟のアスベスト含有調査業務	0.3	随意契約（少額）	－	－	－
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							チェック	